

LIBRARY NEWS

桜の聖母短期大学図書館情報センター報
No.38 2021年8月



保護者、子育て支援者を目指す学生へおすすめの1冊

こども保育コース 狩野奈緒子

子育て中の親は、たくさんの「ノロイ」にがんじがらめにされているのでは？
明るいタッチで語りかける著者は、気鋭の発達心理学者（発達障害専門分野）の赤木和重氏です。

「あなたの子育てノロわれています」という第1章から始まり、どの親にとっても「目からウロコ」の問いかけです。

子育て支援者を目指す学生の皆さんは、親自身が、自分をごんじがらめにしてしまう要因を学ぶきっかけになるでしょう。

子育て中だけでなく、私たち皆が「ノロイ」にがんじがらめにされているのかもしれない、自分の心と体をゆるやかに解き放つためにも、読んでみたい1冊でもあります。



『子育てのノロイをほぐしましょう』
：発達障害のある子どもに学ぶ
赤木和重著 日本評論社
請求記号：379.9/A29

薦められて読んだ本『八甲田山死の彷徨』 新田次郎 著

こども保育コース 堺秋彦

『八甲田山死の彷徨』は、日露戦争直前の1902年（明治35年）に、ロシアとの戦争に備えた寒冷地における戦闘の予行演習また、陸奥湾沿いの青森から弘前への補給路をロシアの艦砲射撃によって破壊された場合を想定した演習を描いたもので、神田大尉が率いる部隊と徳島大尉が率いる部隊の2つの部隊が八甲田山で行った雪中行軍の様子を生々しく描いています。演習当日は、北海道で史上最低気温が記録されるなど、例年の冬とは比べ物にならない寒さだったといわれており、参加部隊が記録的な寒波に由来する吹雪に遭遇し、神田大尉が率いる部隊がほぼ、全滅（死亡）しました。

本書を読み、

- ①リーダーの資質（リーダーの人間性、判断の重要性等）
 - ②人間の本質
 - ③極限状態に陥った時の人間のあり様
- について思い、考えさせられました。

『八甲田山死の彷徨』
新田次郎著
新潮社（新潮文庫）
請求記号：913.6/N88-3



*先生方が紹介して下さった本は図書館で所蔵しています。
ぜひ手に取ってみてください。